



ドクターがズバリ答える!

目の前に黒いものがチラチラ……。飛蚊症かなと思つたときの対処法

40代で自覚する人が多数
近視の強い人は要注意

目の前に虫や糸くずのような浮遊物がチラつく症状が生じる飛蚊症は、加齢が要因であることが多いが、中には重い病気のサインとなつていることもある。富田実アイクリニックス銀座の富田実院長に話を伺つた。「40代を過ぎると飛蚊症を自覚する方が増えてきます。特に近視の強い方は飛蚊症になりやすいといわれています」と富田院長は話す。「白い背景や青空を見上げたときなどに、目の前に「ゴミ」のようなものが浮遊しているように見えます。実際は「ゴミ」が付いているわけではないので、目の表面を洗っても改善しません。飛蚊症は原因によつて、大きく二つに分けられる。一つは硝子体という眼球組織の変化が原因となつて発症する、「生理的飛蚊症」だ。加齢などの影響で硝子体に生じたシワや濁り、硝子体そのものの萎縮などに

より、網膜に黒い影が映り、視野に黒い点ができる。また、硝子体内の血管の影響で、生まれつき飛蚊症の症状を感じるケースもある。これらの生理的飛蚊症の場合、視力に影響があつたり、症状が進行したりしない限り、治療を急がないことが多い。放置すると失明のリスクも速やかな受診がカギ

ただし、速やかに治療が必要なケースもある。網膜剝離、硝子体出血、ぶどう膜炎といった重い病気が関係している「病的飛蚊症」の場合、放置しておくこと失明のリスクもある。「飛蚊症の症状を自覚したら、眼科を受診して原因を知っておくことが大切です」と富田先生。

なお、早急な治療が必要でない飛蚊症でも、日常生活に不都合があれば、症状を緩和させるレーザー飛蚊症治療という選択肢も登場している。まずは眼科できちんと診察を受け、原因や症状に応じた対処をしていきたい。

飛蚊症の分類と要因

生理的飛蚊症

- 生まれつき
- 後部硝子体剝離

(レーザー飛蚊症治療が可能)

病的飛蚊症

- 強度近視
- 硝子体出血
- 網膜剝離
- ぶどう膜炎

(レーザー飛蚊症治療は不可)



飛蚊症の症状 よくある見え方のパターン

ワンポイントアドバイス

生理的飛蚊症の場合、飛蚊症の原因となる硝子体内のシワや濁りをレーザーによって破碎・分散させることで、症状を軽減させる方法もあります。必要に応じて検討してみるのもよいでしょう。



監修 / 富田 実
富田実アイクリニック銀座院長。海外の大学で眼科客員教授を歴任し、世界中で多くの賞を獲得するなどグローバルに活躍する。

